

## みんな違う普通

橘中学校 三年 新村 海

私は、ときどき「普通」って何だろうと考えることがあります。その人にとっては「普通」でも他の人にとっては「普通」ではなく、他の人の「普通」の基準でその人を「異常」だと決めつけ、その人を批判する場面をSNSや日常生活でも見たことがあります。その例にあてはまるのが「LGBT」だと思います。「男らしさ」や「女らしさ」は「普通」なのでしょうか。「男性が女性を好きになること」、「女性が男性を好きになること」は「普通」なのでしょうか。逆に「男性が男性を好きになること」、「女性が女性を好きになること」は「異常」なのでしょうか。

「LGBT」とは、レズビアン、ゲイ、バイセクシャル、トランスジェンダーなどの頭文字をとったものです。「LGBT」の人達には、同性を好きになること、体は違っても男性や女性の心を持つことなどはその人にとっての「普通」で、それを自分にとっては「普通」ではないと

「異常」呼ばわりし、批判する人達もいます。けれど私は「異常」というのは存在しないと思います。日常的な話し合いの中でも意見が分かれたり、ファッションの好みや物語の好みがそれぞれ違ったりするときがあります。それは、ひと一人一人に「個性」があるからです。私は、友達同士で「究極の二択」という遊びをしたことがあります。「犬派か猫派か」や、「夏か冬か」といった二択の質問に答えるだけの遊びですが、その二択で友達と意見が分かれるのも、それぞれ意見や価値観などの「個性」を持ってこそそのものだと思います。これは「LGBT」に限らず、すべてにあてはまります。「異常」なんて存在しないし、みんなそれぞれの「普通」や「個性」を理解し、全員が堂々と生きられるような世の中を作っていかなければならないと思いました。私自身、これまで「普通」という言葉を何度も使ってきました。しかし、あるとき友達と話していて、自分にとっての「普通」が相手にとってはそうでないと気づきました。例えば私は、周りになじむように無難な服装を着るのが「普通」だと思っていましたが、友達は周りを気にせず好きな服装を貫くのが自分にとっての「普通」だと言っていました。その瞬間、私は自分の価値観がいかに限られたものだったのかを知りました。その出来事以来、私は人を一つの基準で判断することの危うさを強く意識するようになりました。学校での服装や髪型、話し方など、私たちは無意識のうちに「こうあるべき」という基準を持っています。しかし、その基準は決して全員にあてはまるわけではありません。むしろ、多様な考え方や生

き方を認め合うことで、互いに安心でき、より自由に振る舞うことができるのだと感じます。また、そうした理解が広まれば、いじめや差別も少なくなるはずです。私はこのことから、「異常」という言葉は存在しないのだと強く思うようになりました。一人一人が持つ「普通」と「個性」を理解し、尊重し合うことが大切だと感じています。

「異常」という言葉は、人の個性や生き方を否定し、傷つけるものです。実際には、異常も正常もなく、それぞれが持つ「普通」と「個性」があるだけです。だからこそ、私たちは違いを恐れずに理解し、多様性を尊重する社会を目指さなければなりません。誰もが自分らしく、堂々と生きられる社会は、きっと誰にとっても居心地の良い場所になると信じています。私はこれからも、自分の周りから少しずつでも多様性を大切にする輪を広げていきたいと思っています。そして、多くの人があるままの自分を素直に表現できる未来をつくっていききたいです。これこそが私たちの役割だと感じています。私もその一員として歩んでいきたいです。